

Narashino International Association



NIA SQUARE ファウエア

Quarterly News

第70号

2005年6月1日
習志野市国際交流協会

Special Report Report

習志野とドイツの交流
モハマド少年との生活
INDIA-a land for all seasons

Information Alabama News Who's who Challenge

2005年度総会報告
アラバマからこんにちは
こんにちは・コンニチハ
ザ・英文クロスワード・俳句

ドイツ年を迎える
「日本におけるドイツ年2005/2006」が開催されているが、その一環としてデュッセルドルフ交響楽団が習志野文化ホールで演奏することが内定した。第一次世界大戦の際、現在の東習志野にあつたドイツ兵の捕虜収容所では音楽演奏会などを媒介とした周辺住民との交流があり、その流れが現在も継承されている。ドイツとの絆をもう一度想起し、新しい文化交流の形成を期待したい。



日本とドイツは、150年近くにわたり、互いに対する関心や理解、そして知的交流を基盤とした協力関係を育み、緊密で友好的な関係を築いてまいりました。

貴習志野市は90年にわたり、こうした両国関係に大きな貢献

をしてこられました。

20世紀初頭、習志野市にはドイツ人捕虜収容所がありました。当時、この困難な状況下において、日本人とドイツ人は人として心を通わす関係を築いたのです。こうした双方の出会いから深い友好関係が生まれ、多くのドイツ人が解放後も日本に残る決心をしたのでした。

こうした遺産を継承すべく、貴習志野市では、ベートーベンの第九交響曲とその讃歌「歓喜に寄す」の公演を毎年開催され、ご尽力しておられます。

本年度は、こうしたご尽力が殊に求められる年であります。と申しますのは、2006年3月まで「日本におけるドイツ年2005/2006」が開催されるからです。この「ドイツ年」を通じて、我々両国の信頼と友好に満ちた関係を更に進化し、取り分け若者のドイツへの関心を呼び起こし、強化していきたいと考えております。

Henrik Schumacher

ドイツ連邦共和国大使
ヘンリク・シュミーゲロー



「日本におけるドイツ年2005/2006」は、ドイツを様々な側面から広く日本の人々に紹介するものです。

習志野市には、大正3年の第一次世界大戦当時、現在の東習志野の地に捕虜収容所があったことから、多くのドイツ兵捕虜の足跡が残されております。

この捕虜収容所については平成12年1月に捕虜の解放・帰国80年を記念する資料展を開催し、当時のウーヴェ・ケストナー駐日ドイツ大使をはじめ多くの皆様にご覧いただきました。

さらに習志野市では、毎年、年末にドイツ大使をお招きし、市民による第九演奏会を開催しており、平成15年には初の訪独演奏旅行も成功させました。

このように習志野市は昔からドイツと深い関わりのある地であります。

ドイツ年では、全国各地で300件以上の行事が開催されるそうですが、習志野市でも習志野文化ホールで6月15日にデュッセルドルフ交響楽団による演奏会が予定されています。

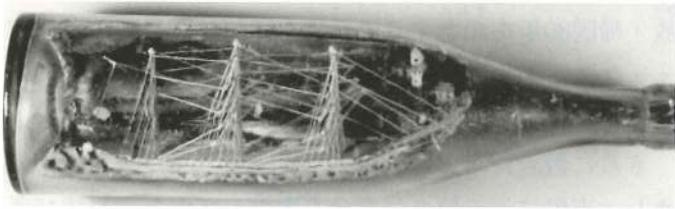
ドイツ年を契機に市民の皆様がドイツについてさらに関心を持ち、ドイツとの交流がより一層深まることを願っています。

習志野市長 荒木勇

捕虜のボトルシップ

「実は、大正のドイツ捕虜がくれたこういう物があるのですが…」。津田沼にお住まいの歌田實さんから情報が寄せられたのは、平成9年夏のことであった。ビール瓶大の薄青いガラス瓶の中に帆船の模型を組み立てた「ボトルシップ」である。当時、先生をされていた母方が、受け持ちの子供らを連れて収容所を見学に行った際、ドイツ兵がプレゼントしてくれたのだという。

第一次世界大戦の際、中国のドイツ租借地・青島をめぐる日独戦争（1914）で捕虜になり日本の各地に収容されたドイツ兵の一部が、翌大正4年（1915）秋から8年（1919）の末まで、現在の東習志野にあった捕虜収容所で暮らしていたことは以前から知られていた。しかし、その「遺物」を手にするのは、これが初めてである。このボトルシップ発見を機縁に調査を進めたところ、ドイツ側にはまだまだたくさんの写真、記録が残されていることがわかった。それを取り寄せて調べた成果は、平成12年の史料展で発表され、現在では「ドイツ兵士の見たニッポン」（丸善ブックス94）と題する書物となって公刊されている。そこに浮かび上がってきたのは、捕虜収容所という名前から連想される監獄のようなものではなく、習志野原に浮かぶドイツの出島のような生活の場であった。捕虜オーケストラの奏でる洋楽の調べは、鉄条網を超えて実糀の村に届き、周辺の子供らは中に入つて、ドイツ兵からラムネをもらっては、一緒にパントマイムの道化芝居を楽しんだというのである。



ドイツ捕虜のプレゼント「ボトルシップ」

国際法において捕虜とは、保護すべきものであって罪人ではない。習志野収容所長・西郷寅太郎大佐（隆盛の嫡男）はドイツ留学の経験を持ち、ドイツ語はもちろん、彼らの習慣、考え方もよく理解していた。また、幼い日に西南の役を経験し、戦争の悲惨さも破れた者の悲哀も、身に染みてよく知る人であった。その西郷所長の心情は、彼らドイツ捕虜にもよく伝わっていた。その一つの象徴が、ソーセージ製法の伝授であった。ソーセージ作りは職人の秘伝が多く、当時の日本では国産が出来なかったところ、西郷所長のたっての頼みで、実演して見せてく

れた。その記録が農商務省畜産試験場を通じて、全国の食肉業者に伝わったのである。何と習志野は、ソーセージ本邦伝来の地だったのだ。

西郷所長は収容所長会議で「彼らの作る腸詰や菓子、石鹼などは、近隣の住民からも歓迎されている」と述べている。また、楽器工房が作るヴァイオリンやギターを東京で売って、彼らの小遣い稼ぎが出来ないか、という上申書も残されている。彼らは鉄条網の中で孤立して暮らしていたのではなく、周辺の住民とさまざまな交流を持っていた。ある人は彼らの洗濯物を請負いに通い、ある人は彼らのセカンドハウス作りの材料を納め、いつの間にか南ドイツの民謡を聞き覚え、口ずさむ人もいた。「故郷に送る郵便物には規制があったが、日本の子供に小銭を渡せばいくらでもすり抜けることが出来た」、そう書き残しているドイツ兵もいる。



ビールのタベ

恩讐を超えて…

大正8年のクリスマスの朝、解放の日を迎えた彼らは、津田沼駅から横浜港・神戸港、そして故国へと向った。しかし、彼らの足跡は、ここで終ることはなかった。フリット・ルンプは、習志野で仕上げた「日本の民話」を出版し、この訳書は現在でもドイツで刊行されている。彼はこの後、ドイツにおける浮世絵研究の第一人者になる。また、帰国船に乗らずそのまま我が国に留まった者もいた。銀座にレストランを開いたケテル、ソーセージ屋を始めたブッチングハウスなどの実業人、大学教授として日本の青年らを育て、ドイツへの日本文化紹介に尽力したユーパーシャール、フォン・ヴェークマン、昭和20年春に「幻の終戦工作」を演出したハックなど、実際に多方面に、習志野を後にした彼らの活躍が残されているのである。

「およそ戦争の歴史は、憎悪と報復の連鎖である」と言われるが、その悪循環を断ち切り、日独の和解を実現

したのは、習志野はじめ各地の収容所を後にした、彼ら
ドイツ捕虜の人知れぬ努力あってのことであった。

波紋は今も

さて、戦争による捕虜が、団らすも親善大使役を果たしたというこの珍事は、現在もなお波紋を広げている。

平成13年には、捕虜オーケストラの指揮者ハンス・ミリエスが習志野で作曲した優美なドイツ歌曲の楽譜が子孫の家から見つかり、ソプラノ歌手鮫島有美子さんによって習志野文化ホールで蘇演された。その模様はNHKテレビを通じ、またCDとして発売され、全国に反響を呼んだ。

また、平成15年には、習志野第九合唱団の有志がドイツに招かれ、初の海外演奏旅行を行った。

習志野に収容されていたドイツ兵の中に、ワイン技師ハインリッヒ・ハムがいた。彼は明治の末に日本政府に招かれ、山梨県のあるぶどう園の指導に当っていたが、戦争の勃発に際し青島で祖国のために戦い、捕虜として再び日本に戻されるという皮肉な運命に翻弄されていた。彼は習志野で「フェーダーヴァイサー」というワインを醸造し仲間を喜ばせていたが、やがて帰国船に乗って故郷エルスハイムに帰り、再び日本の地を踏むことはなかった。しかし、彼が心血を注ぎ、志半ばで後にした山梨県のぶどう園は、絶余曲折を経て現在のサントリーワンワイナリーになっている。日本産のワインを造るという彼の夢は、半世紀を経て実現していたのである。

彼の実家ハム醸造所は、銘酒の産地ライン=ヘッセンでも指折りの名門である。その当主（彼の甥）のもとに、習志野時代の日記、そして「習志野収容所にて」とラベルが貼られた手製のギターが残されていた。この日記は翻訳され、「習志野市史研究3」として刊行されているが、この資料提供をお願いしたことが一つの機縁となった。ハインリッヒ叔父は帰国後、エルスハイム男声合唱団の団長として歌っていた。習志野の捕虜合唱団で合唱の楽しみに目覚めたらしい。そのエルスハイム合唱団は、今でも活躍している。習志野に合唱団があるのならば、エルスハイムに来てこちらの合唱団と共に演しないか――。ハム醸造所から、そんな誘いが届いたのである。

「世界の人々よ、兄弟たらん」と歌い上げるベートーベンの第九交響曲は、我が国では今や年末の風物詩になっており、習志野第九演奏会は毎年回を重ねて、既に四半世紀を超えている。その第九の本邦初演は、やはり第一次大戦の折、徳島県板東収容所のドイツ捕虜オーケストラと合唱団によってであった。鉄条網を超えて“昨日の敵”に「世界の人々よ、兄弟たらん」と呼びかけた板東の戦友らの歌声は、そのまま習志野のドイツ兵の心

からの訴えでもあったであろう。



習志野捕虜オーケストラと捕虜合唱団の共演

習志野第九合唱団の訪独は、平成15年8月に実現した。ぶどう畑の広がる田舎町エルスハイムのホールには、ハム家はじめ地元の人々の他、ドイツ各地にいる元捕虜の子孫や研究家も集まつた。ハム家当主の従弟、ヘルムート・シュミット元首相は知日家として知られているが、「我が一族の歴史に、日本とのこんな“えにし”があつたとは知らなかつた」と祝賀メッセージを寄せていた。演奏会はエルスハイム合唱団の歌う日本の歌、習志野側がドイツ語訳詞で歌う日本の歌、両者共演で当時収容所で歌われていたドイツ民謡と進み、最後は両合唱団による第九交響曲終楽章「歓喜に寄せて」で幕を閉じ、大きな喝采を浴びた。地元紙は「忘れられた日本との絆」と題して、連日大きく報じた。生きていれば120歳に当たる、ハインリッヒ・ハムの誕生日の夜のことであった。

ついで 追記

「日本におけるドイツ年2005/06」の文化使節として日本各地を訪れるデュッセルドルフ交響楽団が、習志野文化ホールで演奏会を行うことが内定した。習志野捕虜オーケストラのことを耳にした関係者が、ぜひこの町を訪れたいと白羽の矢を立ててくれたものである。

詳細な日記を残して習志野収容所の日々を後世に伝えてくれた水兵クリスティアン・フォーゲルフェンガーは、デュッセルドルフ、ケルスカー通りの出身である。また、帰国の日を待たず収容所で亡くなり、今も船橋市営習志野霊園に眠るフリツ・テネスもデュッセルドルフの出身である。

今日、多数の日本企業が進出し「ヤパーナースドルフ（日本人村）」とあだ名されるデュッセルドルフに、また1ページ、日本との交流の歴史が書き加えられることになろう。



読者の皆さんには、イラクのモハマド少年については、新聞やテレビ等を通してよくご存知かと思います。モハマド少年は、戦争で目を負傷し、その手術のために2回日本を訪れています。記事を書いていただいた小林康純さんは、習志野市在住で、児童養護施設に付置されている「児童家庭支援センター」の相談員として活躍されたのち、モハマド少年の滞在中、彼に付き添い、いろいろな面で支援されました。今回は、モハマド少年とのふれあいを通して感じられたことを書いていただきました。

小さな縁がきっかけとなりモハマド少年の二度目の来日となる平成16年12月から1月15日の帰国までの間、沼津での生活や杏林大学医学部付属病院の付き添い入院、パンコクまでの帰国の付き添いの時間をモハマド少年と伯父のワリード氏と共に過ごすことになりました。その時の生活の様子について少し書いてみたいと思います。

ホテルのロビーで初めてモハマド少年に会った時は、はにかみ屋でとても大人しい少年である印象を受けました。ただ彼も元気な11歳の少年であり、まして町を破壊されたファルージャからみれば目新しものばかりで保護者の目がなくなった瞬間から好奇心から興奮して、周囲の大人は振り回されっぱなしでした。またモハマド少年からしてみれば伯父のワリード氏は実父ではないため多少の遠慮があり、独身のワリード氏からしてみればヤンチャ盛りの少年の扱いは戸惑うことがある様子で、互いに安全な範囲で外出してくれる状態が理想のようでした。

短期間とはいっても生活をする以上は食事、金銭面、衛生面等々の管理が発生する訳ですが、日本人同士でもデリケー



モハマド少年

を勧める周囲に対し、イラクの総選挙を控え不透明な情勢から、一刻も早く一族の元へ帰りたいと悲鳴のような訴えによりイラクへの帰国を早めた経緯を考えると、一族を離れて遠い外国で生活することは甚だ精神的に負担であった様子でした。

イラク大使館の人は「イラクの少年が長期間を海外で過ごすことは奇蹟だ。うちの子は、外国の寮に出したら3ヶ月でホームシックになって帰ってきたよ」と話していました。

モハマド少年も手術前後は精神的に不安定で、私とテ



パンコクの空港にて

トな問題を言葉も通じない同士が行なうのですから、大変な問題でした。実際、金銭管理の為に買物時のレシートの保管をお願いすると「イラクにはレシートなんぞ無い」と言われ「ここは日本だから、金銭管理のためレシートは必要である」と通訳を通じて会話をしますが、それを通訳が分かるように訳しているかは甚だ心もとない上にこうした話が連続すると空気が陥悪化することもしばしばでした。

アラブの歴史を記す文献で繰り返し強調されていたのが、砂漠という個々人の力が及ばない過酷な環境から生まれた防衛策、即ち親族間の助け合いを極度に強めた強烈な「部族意識」でした。これがどこまで現代の生活に浸透しているかは分かりませんが、モハマド少年の角膜移植手術を終え、あらゆる医学的



病院での治療

レビを見ている最中や、会話が途切れた直後などの、沈黙が訪ると両親を思い出して泣くことがありました。また眼の負傷以来、眠りが浅く健康上の問題も出てきたそうです。戦争を経験した児童の心理的要因が身体に及ぼす影響については不勉強のため分かりませんが、被虐待児等に特徴的な心因性の現象と共通する箇所もあり、傷の深さを見た感じがしました。

「アラビアのローレンス」ことT・E・ローレンスは著書『知恵の七柱』の中で「アラブ人には中間色の世界は存在しない。黒かそうでなければ白で、世界を認識するのだ。」とアラブ人を表現しています。その国の人人が山吹色や萌黄色を使う国に来て、生活と入院治療をするのですからお互いに行き違いは日常茶飯事で、最後のほうはお互いに広い心で聞き流す術を覚えました。ただ沼津では文字通り一つ屋根の下で生活し、病院では狭い病室に大人二人と少年一人が肩を寄せ合うようにして日々を送り、会話集を使ってですが互いの家族や生活のこと、国に対する想いなど話しました。文化的共感は困難を伴うことが多いのですが、感情的共感は可能です。

イラクから来るニュースにはなかなか明るいものはありませんが、モハマド少年が言った「平和になったら早く学校に行きたい」という言葉がいつになつたら叶うのかなと思う日々です。

なお、その疑問に対してアラブ人の答えでは「インシャー アラー（アラーの御心のままに）」だそうです。



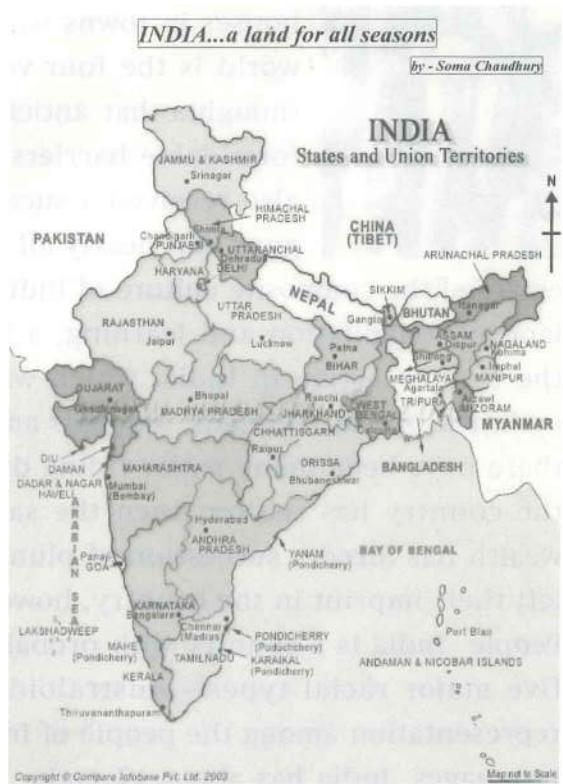
INDIA...a land for all seasons

by - Soma Chaudhury

With a land area of 3.3 million square kilometers and a population of a staggering 1027 million (2001 census), the beautiful subcontinent of INDIA says “Namastey” !! India lies in south Asia, between Pakistan, China and Nepal. To the north it is bordered by the world’s highest mountain chain, The Himalayas, where foothill valleys cover the northernmost of the country’s 26 states. Further south, plateaus, tropical rain forests and sandy deserts are bordered by palm fringed beaches. Side by side with the country’s amazing topographical variations, is its cultural diversity, the result of the coexistence of a number of religions as well as local tradition.

In the “Thar” desert of Kutch, Gujarat (West India), on the other hand, a scattering of villages pit themselves against the awesome forces of nature, resulting in Spartan lifestyles made vibrant by a profusion of jewelry and ornamental embroidery. In the extreme north is the high altitude desert of Ladakh. Up there, local culture is visibly shaped by Buddhism, as well as by the harsh terrain. Again, yet another facet of Indian culture is observed in the colorful tribal lifestyles of the north eastern states of Nagaland, Mizoram, Tripura and Manipur with their folk culture.

India’s mountains provide skiing, river rafting, mountaineering and trekking. Its beaches provide lazy sun-bathing as well as wind surfing and snorkeling, and its jungles provide “shooting” wildlife - with a camera!!!!





National Insignia



Flag : The horizontal tri-color is in equal proportion of deep saffron on the top, white in the middle with the blue "Wheel of Law", and dark green at the bottom.

National Bird : The Peacock.



National Animal : The Tiger.



National Fruit : The Mango.



National Flower : The Lotus.



National Sports : Hockey.



A very brief look into the past



The history of India is shrouded in antiquity. It goes back to 3,200 BC when Hinduism was first founded. The country has been thought of as a nation of philosophers with a well-developed and even idyllic society. Excavations of sites belonging to the Harappan era show that the people lived in brick houses in towns with excellent drainage. One of the oldest scriptures in the world is the four-volume Vedas that is regarded as the repository national thoughts that anticipated some of the modern scientific discoveries. Despite formidable barriers in the form of the mighty Himalayas and oceans, India also received a succession of foreigners, many of them carrying swords and guns. But nearly all of them stayed on. Out of these waves of immigration has emerged the composite culture of India and made it a land of unity in diversity. India became a land of assimilation and learning, a land of change and continuity. The Aryans were among the first to arrive in India, which was inhabited by the Dravidians. Others who came here included Greeks, Persians, Mughals and then the British, Portuguese and French. Over the years, there have been many major ruling dynasties. As a consequence of India's size, the history of the country has seldom been the same for two adjoining territories, and its great natural wealth has lured a succession of plunderers, traders, and foreign influences to it, each having left their imprint in the country, however faint or localized.

People India is a country with probably the largest and most diverse mixture of races. All the five major racial types - Australoid, Mongoloid, European, Caucasian and Negroid - find representation among the people of India, who are mainly a mixed race.?

Languages India has about 17 major languages and 844 different dialects. The Sanskrit of the Aryan settlers has merged with the earlier Dravidian vernaculars to give rise to new languages. Hindi spoken by about 45 per cent of the population is the national language. But it is actually English that has maintained its importance as a language for official communication.?

Religion Nearly every major religion in the world is represented in India, which is also the land of the Lord Buddha and Lord Mahavira, the founders of Buddhism and Jainism. Also, religions like Sikhism, Judaism, Zoroastrianism, Christianity and Islam all exist within the country today.

Art & Cultural Heritage

Painting India has very strong but ancient traditions in painting. The evidence lies in the fresco paintings of the caves of "Ajanta and Ellora", the Buddhist palm leaf manuscripts and the Jain texts. Religion had a great influence on the early Indian paintings. The Bengal renaissance and modern art, influenced by Europe, also made their mark. The doyen of Indian modern art, Abanindranath Tagore, used Japanese and Chinese techniques in his paintings and drawings. The Nobel laureate, Rabindranath Tagore, who had a very close relationship with Japan, was an accomplished painter.



Dance The origin of classical dance in India goes back to 2BC when the ancient treatise on dance, "Natya Shastra", was compiled. Dance in India is guided by mythology, legend and classical literature. Classical dance forms have rigid rules for presentation. Among the leading forms of classical dance are Bharat Natyam, Kathakali, Kathak, Manipuri, Odissi, Kuchipudi and Mohini Attam. In addition, there are numerous forms of folk and tribal dances in India.?

Films The country leads the world in the output of movie films, with more than 900 produced annually. They command an enormous domestic market and have become increasingly popular abroad, particularly in Asia, Africa and North America. The major production centers are Mumbai, Madras (Chennai) and Calcutta. There has been widespread recognition of Indian artistes and directors at film festivals in different parts of the world. The late Satyajit Ray from Bengal was awarded many prestigious international awards including the Oscar Academy Award in 1992 for Lifetime Achievement in Cinema.?

Music The ancient Indians believed in the divine origin of music. The purest form of sound was considered equal to cosmic energy. As a result, music and the Almighty were always closely intertwined.?

INDIA TODAY



Modern India is home alike to the tribal with his anachronistic lifestyle and to the sophisticated urban jetsetter. It is a land where temples and elephants exist amicably with the microchip. Its ancient monuments are the backdrop for the world's largest democracy where atomic energy is generated and industrial development has brought the country within the world's top ten nations. Today, fishermen along the country's coastline fashion simple fishing boats in a centuries old tradition while, a few miles away, motor vehicles glide off conveyor belts in state-of-the-art factories.

India as a tourist destination

20,000 respondents from over 167 countries participated in the annual Lonely Planet Pulse Survey. After Australia, rated as the top global destination, the most desired destinations to visit were Chile, Brazil, New Zealand and India. "A vast majority of travelers would rather explore a new culture than chill out ... 95% of respondents said that exploring other cultures when traveling is important or very important to them," the survey said. With the crowning glory of the "Taj Mahal", representing the symbol of love and imagination, and given her rich cultural heritage, it is not surprising that India made it to the final five...!!!!



Information／2005年度総会で次のことが決まりました。

5月14日（土）午前11時より京成津田沼サンロード6階習志野市役所分室大会議室において2005年度（平成17年度）の総会が開催されました。

例年どおり、総会では2004年度の事業報告及び決算報告の承認と2005年度活動計画、及び予算についてご検討をいただき承認されました。また、部会名の変更にともなう会則の一部変更及び役員の選任の承認をいただきました。では、その一部をご紹介いたします。

理事の交代のお知らせ

本協会では、二年ごとに理事及び監事の選任を総会において行っておりますが、今年度はその改選期にあたります。今総会において、選任していただいた方は、2005年5月14日～2007年の総会（5月予定）まで理事、監事をしていくことになります。会員の皆さまのご協力よろしくお願ひいたします。

役名	担当職	氏名	役名	担当職	氏名
理事	会長	山田 大三	再任	理事	副会長 林田 陽二
理事	副会長	佐藤 慎一	新任	理事	語学研修部会長 勝又 陽子
理事	姉妹都市交流部会長	今井 洋子	再任	理事	日本語学習部会長 松尾 友一
理事	文化部会長	志知美智子	再任	理事	広報部会長 沼澤 佳子
理事	交流部会長	長安 信明	新任	理事	通訳・
理事	青少年部会長	大野 智弘	新任		ホームステイ部会長
理事		松盛 弘	再任	理事	佐々木幸雄
監事		井上 定則	再任	監事	山口 博

ありがとうございました。

今回の理事の改選にともない、退任をされる理事の方が5名いらっしゃいます。理事をされた期間はそれぞれ違いますが、どの方も本協会のために大活躍された方々ばかりです。紙面をかりて心より感謝いたします。

役名	担当職	氏名	役員期間	役名	担当職	氏名	役員期間
理事	副会長	澤 滋夫	6年	理事	副会長	宮下 純一	1年
理事	日本語学習部会長	栗原 七郎	2年	理事	広報部会長	館川 裕	6年
理事	通訳ホームステイ部会長	山崎美知代	6年	理事	青少年部会長	永坂 香奈	2年

わかりやすい部会名に、変更されました。

本協会では、8つの部会を設置し、それぞれの特色を生かして国際交流活動を展開してまいりましたが、会員の皆様や市民の方々の中に部会名だけ見たのでは、どのような活動をしているのか理解できないというご指摘をうけました。そこで、昨年度組織検討委員会を設置し、活動内容の検討とともに、わかりやすい部会名への変更を検討してまいりました。その結果、下記のように一部変更させていただきましたのでよろしくお願ひいたします。これにともない会則も一部変更することになり改正案を総会でご承認いただきました。

変更した部会名

- ・姉妹都市交流部会（姉妹都市タスカルーサ市との交流活動を中心に行います。）
- ・文化部会（世界の料理教室・日本文化セミナー等の文化活動を中心に活動します。）
- ・広報部会（本協会広報誌「スクウェア」の発行、ホームページの編集等を通して、本協会の活動は勿論、国際理解を図るための情報をお伝えします。）
- ・日本語学習部会（在住外国人の日本語学習をいろいろな面から支援する活動を行います。）
- ・通訳、ホームステイ部会（日本語が理解出来ず困っている在住外国人の方への支援や姉妹都市関係の方々のホームステイのお手伝いをさせていただいている。）

N.I.A.2005年度の主要活動計画が決まりました。多くの参加をお待ちしています。

「習志野市における国際交流を積極的に推進することにより、国際親善及び国際理解を図り、もって習志野市の国際化に寄与すること」を目的にして1987年設立した本協会も、今年で18年目を迎えました。今年度も、各部会ではこの目的を達成するために下記のような具体的な活動を計画しております。

下記の表を見ていただくとお分かりいただけると思いますが、部会名の一部変更とともに各部の活動内容を見直し、その部会にあった活動になるよう改善をさせていただきました。さらに市民の方からの要望が強かった語学講座も今年度より再開することになりました。まだ会場の確保をはじめ多くの問題があり、たくさんの講座を開くことは出来ませんが、今後も継続出来たらと考えております。

下記の活動についての細かい内容につきましては、本協会の情報誌（スクウェア）をはじめ、事務局が随时発行しております「RAINBOW」、さらにはホームページを通して皆様にお知らせする予定になっております。是非ご覧いただき多くの方々にご参加いただければと思います。

2005年度（平成17年度）活動計画

月	総務	姉妹都市交流部会	交流部会	広報部会
4	監査(4/13) 理事会①(4/18)	姉妹都市20周年記念交流事業の検討		編集会議(毎月1回) ホームページ更新(通年)
5	総会(5/14)	姉妹都市交流記念事業の検討②	会員のつどい(5/14)	
6				N.I.A.スクウェア第70号発行
7		タスカルーサ市高校生派遣にかかる支援活動		
8				
9	理事会②	姉妹都市交流記念事業の検討③		N.I.A.スクウェア第71号発行
10		姉妹都市交流記念事業の検討④	バーベキュー大会	
11		タスカルーサ桜祭り 俳句・絵画の募集・題字発送	バス研修旅行	
12	理事会③	クリーティングカード送付		N.I.A.スクウェア第72号発行
1			新年もちつき大会	
2		タ市へ俳句・絵画を送付		
3	理事会④		ポットラックパーティー	N.I.A.スクウェア第73号発行

月	文化部会	語学研修部会	日本語学習部会	通訳・ホームステイ部会	青少年部会
4	世界の料理教室21(4/28)		日本語ボランティア活動 初級・(月・水・木) 中級・(月・水) 小中学生(土) 漢字教室(火) 世話人会(例月) あすなろ会(月・水)	チャットde ALT (毎週月曜日開催) 部会①	定例会 毎月第1水曜日 17:00~ 毎月第3土曜日 13:00~
5	日本文化セミナー①	春期語学講座開始	サンバチーム結成・練習		スポーツ大会(5/21)
6	世界の料理教室22		講師親睦会		
7	日本文化セミナー②	↓	七夕まつり 市民まつり(7/24) サンバチーム参加		パークゴルフ大会・花火大会
8					
9		秋期語学講座開始	日本語ボランティア養成講座	部会②	
10	世界の料理教室23	↓	ミニハイク		バスツアー
11	文化講演会		講師研修会	↓	
12		↓		部会③	クリスマスパーティー
1		冬期語学講座開始	新年茶話会		
2	世界の料理教室24	↓	スピーチ茶話会	部会④	カルチュラルディスカッション大会
3		↓			反省会



As Narashino City and the City of Tuscaloosa celebrate their 20th year anniversary, I would like to introduce you to the State of Alabama which is the home of Tuscaloosa. Since this is the first in four articles about Tuscaloosa, I thought it would be helpful to explain first a little about the history and background of the state. Future articles will focus more on Tuscaloosa and The University of Alabama.

Alabama, one of the Southern States of the United States, is known as the Heart of Dixie. Alabama occupies a central place in the history of the southern states. The Constitution of the Confederacy was drawn up in Montgomery, the state capital, in 1861. The Alabama Capitol served as the first Confederate Capitol. Before the Europeans came to America, cliff dwelling Indians lived in Alabama and excavations have revealed the details of their lives from 8,000 years ago. Later, the Cherokee, Creek, Choctaw, and Chickasaw Indians lived in the region. Alabama was first visited by the Spaniards in the 1500's and was discovered by Hernando Desoto in 1540 according to all historical accounts. The first permanent group of Europeans were French, however, and Fort Louis near Mobile was the first permanent white settlement in Alabama. The settlement was the capital of French Louisiana until 1722, when New Orleans became the capital of the Louisiana territory. In the mid-1800's, the French gave most of their colony to Britain and the territory of Alabama then fell under British control. Some 20 years later in 1783 the British gave the region to Spain after a victorious Spanish attack. Then through a negotiated treaty between the United States Congress and the Spanish, most of Alabama became part of the United States in 1798. It was not until 1819 that all of Alabama officially became one of the United States of America. Thus, the flags of Spain, France, England, and the Confederacy have all flown over the land of the state of Alabama.

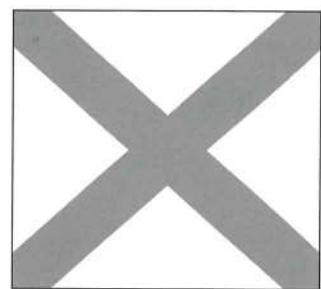
The state flag, adopted in 1895, bears a crimson cross on a white field. The flag's cross is suggestive of the Confederate battle flag, used during the War Between the States, which is referred to as the Civil War in Alabama as well as in most other southern states. The state seal, first adopted in 1819, has a map of Alabama that shows the state's rivers and



アラバマ州の花カメリア

bordering states. The rivers served as important shipping routes when Alabama had few good roads. Today, the rivers remain vital to the state as sources of hydroelectric power. The Black Warrior River runs through the city of Tuscaloosa.

The camellia is the state flower, the state stone is marble, and the state tree is the Southern long-leaf pine. Narashino City accepted a Southern long-leaf pine from Tuscaloosa many years ago in recognition of the sister-city relationship.



アラバマ州の洲旗

習志野市とタスカルーサ市の姉妹都市提携20周年記念を祝して米国アラバマ州タスカルーサ市についてご紹介致したいと思います。今回は、今年度4回発行の1回目の記事としまして、アラバマ州の歴史と概要を分かりやすくご説明したいと思います。

アラバマは合衆国南部の州の一つで、デキシーの中心として知られています。
南部開拓の歴史の中心的場所でもあります。1861年にモンゴメリーに州都市として組織制定されました。
これは州都政策の最初でもありました。

アラバマのインディアンの住居跡は、8,000年前にチエロキー、クリーク、チョクトー、チッカソー族が、住んでいたことを詳細に表しています。1500年代にスペイン人、その後、フランス人が住み着き、1800年代にイギリスの統治下に入りましたが、スペインとの紛争の末、スペインに譲渡されます。スペインの協定を経て1819年にアメリカ合衆国の州になりました。州旗は南北戦争当時から使われています。州の印章はアラバマ州を流れる川を表しています。州花は椿、州石は大理石、州木はサザンロングリーフパイン（大王松）です。この木は姉妹提携を記念して習志野市に贈っています。（市役所入り口に植えられています。）

会員紹介／こんにちは、コ・ン・ニ・チ・ハ／みなさん、どうぞよろしく！

ともだち
友達もたくさんできました。

洪 慧娟 (台湾出身)



こんにちは。私は、洪と申します。

台湾から日本に来て、3年10ヶ月になります。3年前の私と今の私、外見はあまり変わらないけど、心の変化はすごく大きいと思います。
最初日本に来た頃の新鮮な時期、いろいろなことに好奇心をもって動きまわりました。そしてだんだん落ち着いてきました。いろいろなことに出会った後、1年半前に習志野市国際交流協会にやってきました。

協会の皆さんには、とても親切で、日本語を教えてくれる先生もとても優しいです。協会で行う定期活動にもいろいろ参加しましたが、とても楽しかったです。

また毎週1回の日本語の勉強で、台湾からの友達、劉さん、香港からの楊さん、中国からの王さんと仲良しになり、楽しくやっています。皆さんも一緒に楽しみませんか。

いくじ こくさいきょうりょく
育児をとおして国際協力をしてみたい。

もり 森 敦子



はじめまして、簡単に自己紹介させていただきます。

ヨンさまとユンソナちゃんが、好きな一女の母です。キムチは、毎回自分で作るほど欠かせない食べ物で、最近はまっている食べ物はもずく酢です

私がN.I.A.の会員になろうと思ったのは、娘の通う小学校にブラジルとロシアから来た男の子が同級生になったことがはじまりでした。当然彼らは、ポルトガル語とロシア語で日本人との媒介語（共通の言語）がなく、学校側も彼らとの意思疎通（コミュニケーション）をどうして行っているのだろうと心配しているうちに、二人とも帰国してしまったのです。知らない土地で知らない言葉や環境の中で生活をする子どもや育児（子どもを育てる）する人たちを同じ母親として少しでもサポートしたいと思ったことが入会のきっかけでした。

活動を始めて、在日の人たちの役に立っているかどうかは？・・・・ですが、今私に出来ることを一生懸命やろうと思っています。それからN.I.A.の活動の一つで、私は今年、習志野の夏祭りの「きらっと」のサンバの担当になりました。ブラジル出身のグアシアラさん、私にぜひサンバを教えて下さい。お願いします！

デーヴィッド・ノエ (アメリカ合衆国)



こんにちは、デーヴィッド・ノエです。今小さい英かいわ学校のきょうしです。2003年6月シアトルから日本にきました。

シアトルできっさてんの、マネージャーでした。私のしゅみは本を読むことと、りょこうをすることです。日本でおきなわや、ひろしまや、たかやまなどに行ったことがあります。あたらしいばしょを訪問することはおもしろく、ゆかいであります！またいっぱい新しい食べものを食べた、たとえばなつとうや、おこのみやきや、ぎゅうさしです。

日本りょうりが大好き、でもなつとうはきらいです。日本でたんけんするところはまだまだあります！どうぞよろしくおねがいします。

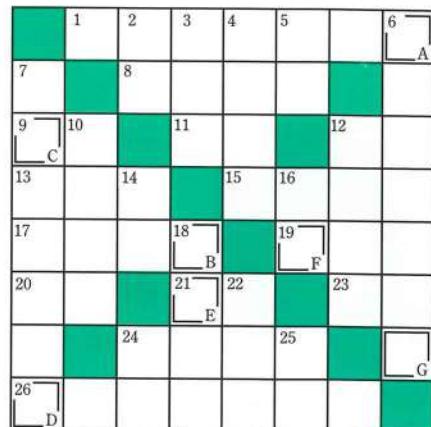
Let'sチャレンジ／ザ・英文クロスワードパズルNo.70/プレゼント付！

〈Across〉

- A big port city in northern Germany which stands at the mouth of the Elbe.
- A fold of a thread, rope, etc., through which another thread or rope can be passed.
- Royal Academy
- District Attorney
- Bill of Lading
- He is eight years—.
- Implement held in the hand and used by workmen, e. g. gardeners, carpenters, builders, ...
- give, —, given,
- North-northeast
- Recording Secretary
- A chemical symbol for Aurum.
- North Riding
- A skin condition, common among young people, that produces a lot of red spots on the face and neck.
- A mechanical contrivance made by human hands, as an airplane, automobile, etc..

〈Down〉

- American League
- Bow(the head) slightly and quickly as a sign of agreement or as a familiar greeting.
- Small open vessel for traveling on water, esp. rowing-, sailing-,fishing-,...
- Come— here and look at the view.
- Room or building for the display of works of art.
- List of items, events, etc.,(e. g. for a concert, play at the theater).
- Cry of sorrow or anxiety.
- A former capital city of the West Germany which situated on the Rhine.
- Discharged Veteran
- London is situated— The Thames.
- Every(one of two or more) considered individually.
- A prefix meaning one, single,
- Alpine Club
- Prefix meaning to make, cause,



〈出題者〉 御園生 馨 (編集部)

〈応募要項〉

クロスを解いたあと、A～Gの文字をつなげてできたことばが正解です。

解答と住所、氏名、年齢、職業、電話番号、本誌の感想等を書いて送って下さい。解答は、ハガキ、FAX、Eメールで7月末日までお送り下さい。

正解者の中から抽選で5名の方に、図書券をプレゼントします。

「N.I.A.スクウェア」編集部まで。

たくさんのご応募お待ちしています。

日本語ボランティア養成講座の開講のお知らせ

在住外国人の方々に日本語を教えていただくボランティア講師養成講座の受講生を募集いたします。受講生は、当協会への加入と養成講座修了後、ボランティア講師として活動出来る方に限定させていただきます。講座は、週2回(火・金曜日)を原則に全30回、60時間です。

期間 9月6日(火)～12月20(火)まで

時間 午前9時30分～11時30分

会場 京成津田沼駅サンロード6階大会議室他

受講料 9,000円(内2,000円は、会費です。よって会員は7,000円です。
他テキスト代実費)

定員 25名(応募多数の場合抽選) 講師 手綱 久枝さん

申込み 事務局(京成津田沼駅サンロード4階)に申込み用紙がありますので、それにご記入下さい。

締め切り 7月30日(土)必着

この件のお問い合わせは、事務局(047-452-2650)までお願いします。

俳句

山気吸ふ室生の深き木下閣

木下閣(こしたやみ):木々の茂りのため、日光がさえぎられた樹下のほの暗いさまをいう。下閣。お暗いという感じである。丁子

編集後記

*第70号を皆様にお届けします。新しい編集部員とともに記事も新しい試みも入れてみました。皆様のご意見をお待ちしております。(S.K)

*今回の特集では、習志野市とドイツの絆について、その歴史的経緯と現状を綴ってもらいました。今後、新しい日独の文化交流の潮流が形成されることを期待したい。(T.K)

*今回のSpecialでは、習志野市と深いつながりのある「ドイツ」をFocusしました。およそ90年前から心の交流があった事は習志野市民の誇りといえましょう。この記事を作成するにあたってドイツ連邦共和国ヘンリック・シュミーゲロー様、習志野市長荒木勇様より多大なご協力をいただきました。また今年度より新たに設けましたALABAMA通信におきましても、アラバマ大学教授Dr Marilynにご協力をいただきました。これらの方々に深く感謝いたしますと共に、多くの方々の助けをいただきましたことを重ねて御礼申し上げます。(K.N)

前回の解答

〈解答〉 CARNIVAL

V	A	I	N		F	D	R
A		C	E	D		E	E
N	R		S	A	M	B	A
	A	L	T		R	A	P
A	C	E		F	A	T	
C	I	G	A	R		E	G
I	A		N	E	T		A
D	L	O	E	A	S	Y	

当選者

柳瀬恵美子さん 木村 和子さん
美濃 律子さん 塚越 義彰さん
中原 浩樹さん 正解者は8名でした。

N.I.A.スクウェア・第70号

発行2005年6月1日/発行責任者・山田大三

編集・習志野市国際交流協会

編集責任者・沼澤 佳子

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼5-12-12

サンロード4F

TEL/FAX 047-452-2650

<http://www.seaple.ne.jp/nia>

<Eメール> nia@seaple.ne.jp